

ロ・BASF

We create chemistry

# うめの 黒星病・すす斑病防除 にはデラン!

殺菌剤

## デラン<sup>®</sup>フロアブル

### 黒星病・すす斑病に優れた効果

黒星病は**1500倍～2000倍に適用拡大**。

また使用時期も**収穫14日前まで**、

**使用回数も2回以内**となり、

よりお使いやすくなりました。



黒星病



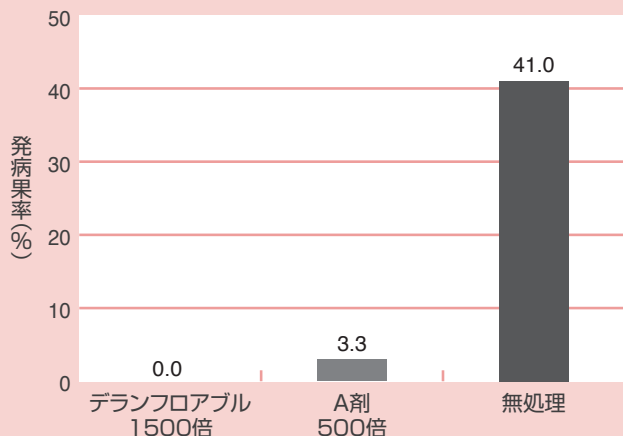
すす斑病

すす斑病写真提供：和歌山県果樹試験場うめ研究所



®=BASF社の登録商標

## 黒星病での効果比較

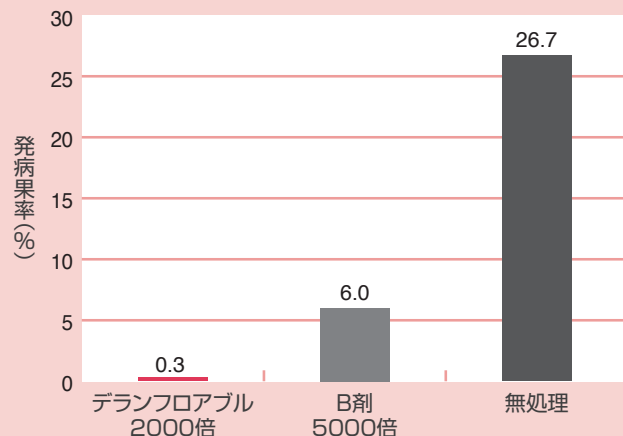


<試験方法概要>

試験年次: 平成25年  
試験場所: (一社)福井県植物防疫協会  
品 種: 紅サシ、26年生  
試験規模: 1区 1/2樹 3反復  
発病程度: 中発生

散布水量: 10ℓ/樹  
散 布 日: 4月4日、16日、28日、5月9日  
調 査 日: 6月10日

## すす斑病での効果比較



<試験方法概要>

試験年次: 平成24年  
試験場所: 和歌山県果樹試験場うめ研究所  
品 種: 南高 11年生  
試験規模: 1区1樹 3連制  
発病程度: 少発生  
散 布 日: 5月1日、16日、28日  
\*デランフロアブルは5月1日のみ散布  
調 査 日: 6月27日

すす斑病試験成績の提供: 和歌山県果樹試験場うめ研究所

## ■適用病害虫と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジチアノンを含む農薬の総使用回数
うめ	黒星病	1500~2000倍	200~700ℓ /10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
	すす斑病	2000倍					

この他に、かんきつ、りんご、かき、もも、ネクタリン、なし、ぶどう、いちじく、おうとう、いちご、せりょうの登録があります。

### ▲効果・薬害等の注意

- 本剤は分離を防止するため、静置時は粘度が高く、振れば容易に粘度が下がるように処方されているので、必ず振ってから使用してください。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液との混用はさけてください。
- かんきつに使用する場合は次のことに注意してください。
  - 1)開花期以降のマシン油乳剤との混用散布は薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。また開花期以降に本剤を使用する場合は、マシン油乳剤との散布間隔を30日程度あけてください。
  - 2)夏期以降の散布は果皮に薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
  - 3)炭疽病(さび果)に使用する場合は、感染期に約1ヵ月の間隔で発病前に予防的に散布してください。
  - 4)収穫後長期間貯蔵する中晩柑に使用する場合は、貯蔵中、果皮に斑点が発生することがあるので、散布をさけてください。
- りんごのモニリア病に使用する場合、多発条件下では所定希釈倍数内の高濃度で使用してください。
- ハウス栽培のなしに対しては、薬害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
- 機能性展着剤(アプローチBIなど)の加用は薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
- ぶどうの黒とう病に使用する場合は、発芽前~新梢伸長期に予防的に散布するのが効果的です。ただし新梢伸長期の散布は葉に薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- いちごおよびせりょうに使用する場合は、新葉に薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

このチラシの記載内容は2020年8月現在のものです。

### ▲安全使用上の注意

- 医薬用外劇物。取扱には十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
  - 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
  - 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
    - 散布の際は防護マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服の交換をしてください。
    - 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
    - かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけてください。
    - 夏期高温時の使用をさけてください。
  - 施設内で使用する場合は、窓等を開放し十分に換気してから施設内に立ち入ってください。
  - 街路、公園等で使用する場合は、散布中および散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
  - 魚毒性: 水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼および海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺での使用はさけてください。水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 保 管:** 直射日光を避け、鍵のかかるなるべく低温な場所に密栓して保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空容器は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。●防除日誌を記帳しましょう。

## BASFジャパン株式会社

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3丁目4番4号 OVOL日本橋ビル3階  
☎0120-014-660 <https://crop-protection.basf.co.jp/>



詳細はWEBでもご覧いただけます。